



SS 探究科学Ⅲ ディベート3連戦 開催

環境科学科3年生は「SS探究科学Ⅲ」の授業で、科学技術の発展と社会問題の関係について理解を深めるためにディベートを行いました。ディベートの対決に向けて事前にインターネットや図書館で調査を進め、資料をまとめました。対戦は以下の3つの対戦が行われ、白熱した議論を行うことができました。

第1回 5月25日 「日本は、商業捕鯨を再開すべきである。是か非か。」

第2階 5月29日 「日本は、遺伝子組換え食品を認めるべきである。是か非か。」

第3回 6月12日 「日本は、積極的安楽死を法的に認めるべきである。是か非か。」

以上のディベートを進める中で、環境、食糧、医療問題等に関連する科学技術について日本の現状理解とその発展を考えるとともに、科学倫理についても意識し、討論することができました。また、同時に言語活動を活発に行うことにより、コミュニケーション力の育成にも

つながったと思います。各対戦には、それぞれ審査員として普通科理系2年生、環境科学科1年生、中学校3年生が、参観しました。参観した生徒も、議論を聞くなかでそれぞれの議論の内容について理解を深めることができました。



SS 環境科学 市内河川水質調査 実施



5月12日和歌山市内の河川水質調査が行われました。これは向陽高校環境科学科が毎年行っているもので「和歌山市内の河川を流れる水はきれいなのでしょうか」「河川は生物が生きていくのには適しているのでしょうか。」という疑問のもとに環境科学科1年生が中心となって取り組んでいます。市堀川、大門川、和歌川、和田川などの河川沿いの橋ごとに分かれ、河川の採水を行いました。その後、学校に戻り、パックテストによる各成分定量を行い、自分達の調査結果をまとめました。また、7月には和歌山大学教育学部の木村憲喜教授を招いて採水した水について、さらに化学分析を行い、詳しい調査が行われる予定です。



2017 ジュニア農芸化学会 参加発表

日本農芸化学会の主催するジュニア農芸化学会が、3月28日に京都女子大学で開催されました。環境科学科の3年生3名が参加しました。日本農芸化学会科会は1924年に設立された歴史ある学術団体で、数多くの大学や企業の関係者がバイオサイエンス・バイオテクノロジーを中心とした多才な分野における研究成果について発表し、交流する場として非常に有名な学会です。その中でジュニア農芸化学会は2006年より開催されているポスター発表会で、今年度は全国から40校もの高校が参加し、主に生物、化学全般に関する研究発表を行いました。本校からは「イシクラゲの生態に関する研究」という研究発表を行いました。会場では、大学の先生方や企業研究者、さまざまな研究機関の研究者の方々から質問やアドバイス、激励の言葉を頂きました。また、全国から集まった高校生たちの発表にも刺激を受け、交流することにより、改めて自分達の研究について考え直す良い機会となりました。

